

九州厚生局長 殿

大分大学医学部附属病院長
野 口 隆 之

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 3 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|--------|
| 研修医の人数 | 38.8 人 |
|--------|--------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-----------|------|------|--------|---------------|-----|-----------------------|------|
| 医 師 | 208人 | 204人 | 394.6人 | 看 護 補 助 者 | 34人 | 診 療 エ ッ ク ス 線 技 師 | 0人 |
| 歯 科 医 師 | 5人 | 15人 | 18.8人 | 理 学 療 法 士 | 8人 | 臨 床 検 査 技 師 | 38人 |
| 薬 剤 師 | 33人 | 1人 | 33.5人 | 作 業 療 法 士 | 6人 | 衛 生 検 査 技 師 | 0人 |
| 保 健 師 | 1人 | 0人 | 1. 人 | 視 能 訓 練 士 | 4人 | そ の 他 | 0人 |
| 助 産 師 | 21人 | 0人 | 21. 人 | 義 肢 装 具 士 | 0人 | あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師 | 0人 |
| 看 護 師 | 545人 | 54人 | 584.9人 | 臨 床 工 学 技 士 | 11人 | 医 療 社 会 事 業 従 事 者 | 0人 |
| 准 看 護 師 | 0人 | 0人 | 0. 人 | 栄 養 士 | 0人 | そ の 他 の 技 術 員 | 15人 |
| 歯 科 衛 生 士 | 2人 | 0人 | 2. 人 | 歯 科 技 工 士 | 2人 | 事 務 職 員 | 147人 |
| 管 理 栄 養 士 | 5人 | 1人 | 6. 人 | 診 療 放 射 線 技 師 | 32人 | そ の 他 の 職 員 | 52人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|--------------|-----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 480.5人 | 8.7人 | 489.2人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 994.2人 | 48.1人 | 1,042.3人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 2020.4剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|--|-------|-----|
| 医療技術名 | 骨変形矯正や開放粉碎骨折に対するTaylor Spatial Frame(創外固定) | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 他の創外固定器と違い、装着後より3次元的に変形矯正ができる。 | | | |
| 医療技術名 | バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術 | 取扱患者数 | 9人 |
| 当該医療技術の概要 内視鏡的に治療困難な消化管静脈瘤に対し、経静脈的にカテーテルを挿入し、流出路をバルーンにて閉塞下にオルダミンなどの硬化剤を使用して静脈瘤の根治を得る手技。 | | | |
| 医療技術名 | 血管腫・血管奇形に対する直接穿刺による硬化療法 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 経動脈的塞栓術では効果の見込めない血管腫・血管奇形病変に対し、直接穿刺し、硬化剤を注入する方法。 | | | |
| 医療技術名 | 超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA) | 取扱患者数 | 23人 |
| 当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節に対して、エコー画像ガイド下に穿刺吸引生検を行い、組織診断する。 | | | |
| 医療技術名 | 超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下の経気管支肺生検 | 取扱患者数 | 49人 |
| 当該医療技術の概要 気管支鏡検査の前日までにナビゲーションシステムで病巣との関与が予想される気管支を同定し、気管支鏡検査時間の短縮を図る。実際の検査においては、ナビゲーションシステムの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的とした陰影に確実に的中させ、その後ガイドシース内の器具を入れ替えて生検を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 自己心膜を用いた大動脈弁再建術 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要 人工弁を用いず自己心膜で弁尖を作成し、それを用いて大動脈弁を再建する方法 | | | |
| 医療技術名 | 難治性下肢虚血に対する骨髄幹細胞移植による血管新生療法 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 難治性下肢虚血症例で、バイパス術や血管内療法などが適応とされない症例に対して、骨髄幹細胞移植により血管新生を促がし、下肢虚血の症状を改善させる。 | | | |
| 医療技術名 | 陳旧性顔面神経麻痺における筋肉移植術 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 顔面神経麻痺による後遺症として、重度の顔面変形が生じた患者や、麻痺が残った患者の顔面に、他部位より筋肉を移植して表情の再建などを行う。 | | | |
| 医療技術名 | 重度 リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 癌治療後や原因不明の四肢のリンパ浮腫で、保存的治療にて改善の無い症例に対して、リンパ管静脈吻合術を行い、浮腫の軽減を促がす。 | | | |
| 医療技術名 | 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 | 取扱患者数 | 18人 |
| 当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこなう。 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 54人 | ・膿疱性乾癬 | 5人 |
| ・多発性硬化症 | 43人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 5人 |
| ・重症筋無力症 | 46人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 33人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 187人 | ・重症急性膵炎 | 8人 |
| ・スモン | 1人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 47人 |
| ・再生不良性貧血 | 14人 | ・混合性結合組織病 | 31人 |
| ・サルコイドーシス | 166人 | ・原発性免疫不全症候群 | 1人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 22人 | ・特発性間質性肺炎 | 55人 |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 104人 | ・網膜色素変性症 | 9人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 25人 | ・プリオン病 | 1人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 23人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 3人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 63人 | ・神経線維腫症 | 10人 |
| ・大動脈炎症候群 | 13人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ピュルガー病 | 3人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 0人 |
| ・天疱瘡 | 9人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 2人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 27人 | ・ライソゾーム病 | 2人 |
| ・クローン病 | 36人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 0人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 13人 | ・脊髄性筋委縮症 | 3人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 52人 | ・球脊髄性筋委縮症 | 1人 |
| ・アミロイドーシス | 8人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 4人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 26人 | ・肥大型心筋症 | 2人 |
| ・ハンチントン病 | 3人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症) | 24人 | ・ミトコンドリア病 | 7人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 9人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 4人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 25人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 16人 | ・黄色靭帯骨化症 | 1人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 1人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 44人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|------------------------------------|----------|
| ・腹腔鏡下肝部分切除術 | ・ |
| ・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検 | ・ |
| ・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 平均して毎月1回 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 15 例 / 部検率 6.00% |

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |
|---|--------|-------------|--------|-------------------------|
| 子宮内膜症の病態の解明と新しい視点に基づく治療法の確立 | 奈須 家栄 | 産科婦人科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| オピオイド鎮痛薬個別化治療への遺伝子メカニズムの解明と応用 | 大橋 京一 | 臨床薬理センター | 1,300 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 母乳ガングリオシドとシアル酸含有多糖類の生理作用:神経細胞分化への影響 | 泉 達郎 | 小児科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 双極スペクトラム概念の検証・再構築とうつ病への臨床応用 | 寺尾 岳 | 精神科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 高分解MRIによる脾周囲リンパ路の解析 | 森 宣 | 放射線科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 蛍光プローブ導入制限増殖型レオウイルスによる腹膜転移特異的画像診断の開発 | 衛藤 剛 | 外科 | 910 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 食道扁平上皮癌の新規癌抑制遺伝子としてのEMP3の同定と発現制御機構の解明 | 野口 剛 | 外科 | 1,170 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 左肺癌における右上縦隔郭清の予後に及ぼす影響—特に微小リンパ節転移について— | 川原 克信 | 外科 | 910 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 非侵襲的脳機能再建の系統的戦略 | 藤木 稔 | 脳神経外科 | 910 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 全身性炎症反応時におけるオートファジーの役割の検討とその制御法の開発について | 萩原 聡 | 麻酔科 | 1,170 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 2型糖尿病ラットにおける腎虚血再灌流性急性腎障害での知覚神経活性化の役割 | 工藤 享祐 | 麻酔科 | 1,430 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| PLKを標的とした婦人科癌の治療とマイクロアレイによる抗癌作用機序の解析 | 高井 教行 | 産科婦人科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 頭頸部癌におけるTLRの発現と生物学的意義の解明 | 能美 希 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,170 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 電磁ホーン型ESRイメージング装置による脳虚血モデルでの酸化ストレスの画像化 | 上田 徹 | 脳神経外科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 圧受容体反射による2型糖尿病患者のリスク層別化と魚油製剤による心血管イベント抑制 | 油布 邦夫 | 内科 | 650 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 糖尿病モデル動物における反復性低血糖発作が心筋へ及ぼす影響と病態の解明 | 手嶋 泰之 | 内科 | 1,430 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 禁煙後に生じる体重増加機構の解析～摂食中枢関連ホルモンとビロリ菌の影響について～ | 阿部 航 | 内科 | 1,690 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 急性好酸球性肺炎におけるオステオポンチン上昇の意義 | 宮崎 英士 | 内科 | 1,430 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 自殺に影響を与える要因の多角的検討:水道水に含まれる微量なリチウムを中心に | 石井 啓義 | 精神科 | 1,430 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 多検出器CTを用いた肝内外門脈周囲域への癌進展形式の解析 | 松本 俊郎 | 放射線科 | 390 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ヒト心房筋電気的リモデリングの成因解明のためのマイクロRNA解析 | 岩田 英理子 | 心臓血管外科 | 1,040 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 骨折治癒におけるリコンビナント線維芽細胞増殖因子とビスホスフォネートの協調効果 | 片岡 晶志 | 整形外科 | 2,470 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ラット疼痛モデルにおける新規化合物DHLHZNの有用性の検討 | 竹島 直純 | 整形外科 | 1,170 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| Invasive frontのmiRNAの発現解析による前立腺癌細胞浸潤機序の解明 | 佐藤 文憲 | 腎臓外科・泌尿器科 | 1,430 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 脂肪細胞由来生理活性物質の子宮内膜機能への影響に関する研究 | 河野 康志 | 産科婦人科 | 780 | 神委 独立行政法人 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|-------------|-------|----|-------------------|
| インフルエンザ菌の感染性免疫寛容に伴う慢性炎症化機序の解明 | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,040 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 重症病態の栄養学的介入による細胞エネルギー代謝調節因子の解明と新栄養療法の開発 | 岩坂 日出男 | 麻酔科 | 910 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ラット脊椎固定モデルにおけるカーボンナノファイバーの骨誘導能の検討 | 宮崎 正志 | 整形外科 | 780 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 積極的脳循環維持による心臓手術後せん妄および認知機能低下予防効果の解明 | 後藤 孝治 | 麻酔科 | 1,170 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 腎癌増殖・骨転移におけるβ2ミクログロブリン刺激伝導系の影響に関する研究 | 野村 威雄 | 腎臓外科・泌尿器科 | 650 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新規抗酸化物質ETS-GSを用いた脳虚血再灌流障害への新しいアプローチ | 長谷川 輝 | 麻酔科 | 910 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 子宮内膜および子宮内膜症の再構築に関する研究 | 津野 晃寿 | 産科婦人科 | 1,820 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新たな子宮内膜症治療薬の検討 | 西田 正和 | 産科婦人科 | 1,040 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 眼瞼脂腺癌の遺伝子異常解析 | 清崎 邦洋 | 眼科 | 2,080 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 体外フォトフェレーシスによる抗原特異的免疫寛容の導入 | 清水 史明 | 形成外科 | 650 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 心筋細胞のイオンチャネル発現を制御する転写因子の決定 | 犀川 哲典 | 内科 | 500 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 肥満症、メタボリックシンドロームにおける食事のリズム調節因子の解析 | 正木 孝幸 | 内科 | 1,950 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 過栄養性脂肪肝の病態生理学的メカニズムの解明と活性酸素によるDNA障害の関与 | 加隈 哲也 | 内科 | 3,120 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 制御性T細胞がEGFR阻害剤の耐性獲得機序に関連しているか | 渡邊 浩一郎 | 腫瘍内科 | 650 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 女性に特有な微小血管性狭心症および冷え症の病態解明と漢方的アプローチ | 中川 幹子 | 内科 | 2,470 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新たな緑膿菌感染症の予防戦略ー線毛の断片化ペプチドによるワクチンの開発 | 門田 淳一 | 内科 | 1,690 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 特発性肺線維症における炎症細胞アポトーシス誘導因子の臨床応用 | 濡木 真一 | 内科 | 1,430 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| GNE遺伝子異常に伴う遠位型ミオパチーの病態解析と治療法の開発 | 熊本 俊秀 | 内科 | 2,470 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 同種造血細胞移植後ヒトヘルペスウイルス6脳炎の病態解析と発症予測 | 緒方 正男 | 内科 | 1,690 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 多剤耐性緑膿菌感染症を制御する新しいシステムの構築ーRNAiによる耐性遺伝子阻害 | 平松 和史 | 内科 | 1,690 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新生児皮下脂肪壊死症は褐色脂肪組織のアポトーシスにより生じる | 藤原 作平 | 皮膚科 | 4,030 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| デルマトポンチンにより活性化されたフィブロネクチンは抗腫瘍活性を持つのか | 岡本 修 | 皮膚科 | 3,640 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| PPARαの活性化は、皮膚バリア機能異常とアレルギー性炎症の悪循環を断つ | 波多野 豊 | 皮膚科 | 2,470 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| うつ病・パニック障害におけるFKBP5とCRHR1の総合的な役割研究 | 穂吉 條太郎 | 精神科 | 1,820 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| がん特異的ラジカルスカベンジ制御に基づく新しい癌休眠療法確立 | 猪股 雅史 | 外科 | 3,120 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 急性肝炎時におけるビタミンE誘導体ETS-GS投与の改善効果の検討 | 新宮 千尋 | 麻酔科 | 2,860 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新規抗酸化物質ETS-GSを用いた敗血症時の副腎不全に対する新しいアプローチ | 松本 重清 | 麻酔科 | 2,080 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ヒト尿道括約筋に高発現するサイトカイン・シグナル伝達関連遺伝子の同定と機能解析 | 三股 浩光 | 腎臓外科・泌尿器科 | 2,860 | 神委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|---|--------|-------------|---------|----|-------------------|
| 網羅的遺伝子解析法を用いた子宮内膜症の病態の解明と新しい薬物療法の開発 | 楢原 久司 | 産科婦人科 | 3,380 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 上気道粘膜免疫誘導機序の解明 | 鈴木 正志 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 2,080 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 鼻粘膜樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの開発 | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,950 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 抗酸化物質の弱点を克服した新たな心筋虚血再灌流障害阻止法の構築 | 高橋 尚彦 | 内科 | 1,430 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 抗酸化能に着目した肺線維症に対する新規治療法の開発 | 野口 隆之 | 麻酔科 | 2,600 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 糖尿病モデル動物の心房細動発生におけるIfチャネルリモデリングの役割 | 篠原 徹二 | 内科 | 1,690 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 終末期腎癌の進行にかかわるゲノム異常の同定 | 井上 享 | 腎臓外科・泌尿器科 | 2,210 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| アレイCGH法による粘膜下浸潤胃癌におけるゲノムコピー数異常の網羅的解析 | 黒田 明子 | 内科 | 1,950 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| プロドラッグを代謝する薬物代謝酵素の遺伝的多型の臨床的意義について | 須崎 友紀 | 臨床薬理センター | 2,080 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| ヘリコバクター・ピロリ菌の病原遺伝子判定キットの開発 | 綿田 雅秀 | 内科 | 2,470 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| エピブラキンは腫瘍悪性度を調節するか? | 石川 一志 | 皮膚科 | 3,120 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新規ビタミンE誘導体ETS-GSを用いた腎虚血再灌流障害への治療法の開発 | 日下 淳也 | 麻酔科 | 2,470 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 肝虚血再灌流障害時におけるビタミンE誘導体ETS-GS投与の改善効果の検討 | 山本 俊介 | 麻酔科 | 2,080 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 加齢に伴うTNF- α 発現量の増加と外尿道括約筋におけるアポトーシスとの関連性 | 住野 泰弘 | 腎臓外科・泌尿器科 | 2,860 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| NKT細胞による上気道粘膜免疫応答の誘導・制御の解析と経鼻ワクチンへの応用 | 野田 謙二 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,950 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 慢性副鼻腔炎における制御性T細胞およびTH17細胞による炎症遷延化の検討 | 藤田 佳吾 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 1,040 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| デルマトポンチン・フィブロネクチン・細胞増殖因子を用いた新しい創傷治療法の開発 | 加藤 愛子 | 形成外科 | 2,470 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 新規 α リポ酸誘導体を用いた敗血症に対する抗酸化療法の開発 | 古賀 寛教 | 麻酔科 | 2,080 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| GNEと相互作用する蛋白質の解明による遠位型ミオパチーの病態解明 | 中村 憲一郎 | 内科 | 1,690 | 補委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究 | 北野 正剛 | 外科 | 36,500 | 補委 | 厚生労働省 |
| グローバル早期臨床試験推進のための大学病院ネットワーク構築の基盤整備事業 | 大橋 京一 | 臨床薬理センター | 114,855 | 補委 | 厚生労働省 |

小計 21
計 74

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|--|-------|------|
| Focus and Clinical Electrophysiology (2011年10月発行) | Effect of cardiac resynchronization therapy on cardiac sympathetic nervous dysfunction and serum C-reactive protein level. | 篠原徹二 | 内科第一 |
| Obesity Research: Clinical Practice (2011年7月発行) | Telmisartan effectively improves insulin sensitivity in hypertensive patients with insulin resistance. | 篠原徹二 | 内科第一 |
| Critical Care Medicine (2011年5月発行) | New lipid acid derivative drug sodium zinc dihydroliposulfinate prevents cardiac dysfunction in an isolated perfused rat heart model. | 高橋尚彦 | 内科第一 |
| Circulation Journal (2011年11月発行) | Cardiac iodine-123 metaiodobenzylguanidine (123I-MIBG) scintigraphy parameter predicts cardiac and cerebrovascular events in type 2 diabetic patients without structural heart disease. | 油布邦夫 | 内科第一 |
| Hepatology Research (2012年2月発行) | Involvement of remnant spleen volume on the progression of steatohepatitis in diet-induced obese rats after a splenectomy. | 後藤孔郎 | 内科第一 |
| Journal of Neurochemistry (2012年2月発行) | A novel anti-inflammatory role for spleen-derived interleukin-10 in obesity-induced hypothalamic inflammation. | 後藤孔郎 | 内科第一 |
| Endocrine Journal (2011年3月発行) | Ghrelin in small intestine, its contribution to regulation of food intake and body weight in cross-intestinal parabiotic rats. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| European Journal of Neurology (2011年4月発行) | Interleukin-6 and silent cerebral infarction in hemodialysis patients: a cross-sectional study. | 縄田智子 | 内科第一 |
| Metabolism (2012年3月発行) | Association between hippocampal volume and serum adiponectin in patients with type 2 diabetes mellitus. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| Metabolism (2011年5月発行) | High-sensitivity C-reactive protein is associated with hippocampus volume in nondemented patients with type 2 diabetes mellitus. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| Internal Medicine Journal (2012年1月発行) | Monocyte chemoattractant protein-1 is associated with silent cerebral infarction in patients on haemodialysis. | 正木孝幸 | 内科第一 |
| Journal of Human Genetics (2011年10月発行) | Computed tomography analysis of the association between the SH2B1 rs7498665 single-nucleotide polymorphism and visceral fat area. | 浜口和之 | 内科第一 |
| Journal of Human Genetics (2011年9月発行) | Association of variations in the FTO, SLC6 and MTHFR genes with metabolic syndrome in a Japanese population. | 浜口和之 | 内科第一 |
| Journal of Human Genetics (2012年1月発行) | Genetic variations in the CYP17A1 and NIS2C2 genes are associated with a reduction in visceral and subcutaneous fat areas in Japanese women. | 浜口和之 | 内科第一 |
| Modern Rheumatology (2012年2月発行) | Adult-onset Still's disease with macrophage activation syndrome successfully treated with a combination of methotrexate and etanercept. | 前島圭佑 | 内科第一 |
| Hepatology (2011年8月発行) | Effect of vitamin K2 on the recurrence of hepatocellular carcinoma. | 清家正隆 | 内科第一 |
| Hepatology Research (2011年6月発行) | Data mining reveals complex interactions of risk factors and clinical feature profiling associated with the staging of non-hepatitis B virus/non-hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma. | 加隈哲也 | 内科第一 |
| Medical and Life Sciences (2011年4月発行) | The incidence of hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C infection decreased in Kyushu area. | 清家正隆 | 内科第一 |
| Journal of Gastroenterology (2011年1月発行) | Factors predictive of sustained virological response following 72 weeks of combination therapy for genotype 1b hepatitis C. | 清家正隆 | 内科第一 |
| Journal of Medical Virology (2011年4月発行) | High Incidence of Cytomegalovirus, Human Herpesvirus-6, and Epstein-Barr Virus Reactivation in Patients Receiving Cytotoxic Chemotherapy for Adult T Cell Leukemia. | 緒方正男 | 内科第二 |
| American Journal of Cardiology (2011年5月発行) | ST-segment deviation in lead aVR on admission is not associated with left ventricular function at predischarge in first anterior wall ST-segment elevation acute myocardial infarction. | 田村 彰 | 内科第二 |
| American Journal of Cardiology (2011年5月発行) | A new electrocardiographic criterion to differentiate between takotsubo cardiomyopathy and acute anterior ST-segment elevation myocardial infarction. | 田村 彰 | 内科第二 |

| | | | |
|---|---|--------|------|
| Allergy International (2011年4月 発行) | A case of eosinophilic pneumonia in a tobacco harvester. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Internal Medicine (2011年4月 発行) | Adalimumab-induced Interstitial Pneumonia with an Improvement of Pre-existing Rheumatoid Arthritis-associated Lung Involvement. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Journal of Cardiology (2012年1月 発行) | The number of leads with fragmented QRS is independently associated with cardiac death or hospitalization for heart failure in patients with prior myocardial infarction. | 鳥越久美栄 | 内科第二 |
| Respiratory Research (2011年6月 発行) | Diagnostic utility of C-reactive Protein combined with brain natriuretic peptide in acute pulmonary edema: a cross sectional study. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Respiology (2011年5月 発行) | Clinical features of healthcare-associated pneumonia(HCAP) in a Japanese community hospital: Comparisons among nursing home-acquired pneumonia (NHAP). | 時松一成 | 内科第二 |
| The Journal of Artificial Organs (2011年6月 発行) | Acetate-free blood purification can impact improved nutritional status in hemodialysis patients. | 友 雅司 | 内科第二 |
| Journal of Critical Care (2011年12月 発行) | Plasma C-reactive protein levels are associated with mortality in elderly with acute lung injury. | 石井 寛 | 内科第二 |
| 日本呼吸器学会雑誌 (2011年4月 発行) | 嗜肺性多発動脈炎に合併したと考えられた間質性肺炎の1例. | 石井 寛 | 内科第二 |
| Alzheimer disease and associated disorders (2011年4月 発行) | Relationship between thyroid hormone levels and regional cerebral blood flow in Alzheimer disease. | 木村成志 | 内科第三 |
| Journal of neuroimaging (2011年4月 発行) | Evaluation of the Regional Cerebral Blood Flow Changes during Long-Term Donepezil Therapy in Patients with Alzheimer's Disease Using 3DSRT. | 木村成志 | 内科第三 |
| Movement disorders (2011年12月 発行) | Brain perfusion differences in Parkinsonian disorders. | 木村成志 | 内科第三 |
| Journal of Oncology Practice (2011年5月 発行) | Characteristics and Outcomes of Patients With Advanced Gastric Cancer Who Declined to Participate in a Randomized Clinical Chemotherapy Trial. | 白尾國昭 | 腫瘍内科 |
| Carcinogenesis (2011年5月 発行) | 17beta-estradiol suppresses Helicobacter pylori-induced gastric pathology in male hypergastrinemic INS-GAS mice. | 渡邊浩 一郎 | 腫瘍内科 |
| J Gastroenterol (2011年5月 発行) | Development of corpus atrophic gastritis may be associated with Helicobacter pylori-related idiopathic thrombocytopenic purpura. | 渡邊浩 一郎 | 腫瘍内科 |
| Cancer Chemotherapy and Pharmacology (2011年6月 発行) | Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1 plus cisplatin for gastric cancer. | 白尾國昭 | 腫瘍内科 |
| Gastric Cancer (2011年6月 発行) | Neuroendocrine tumors of the stomach: chemotherapy with cisplatin plus irinotecan is effective for gastric poorly-differentiated neuroendocrine carcinoma. | 平島詳典 | 腫瘍内科 |
| Internal Medicine (2011年6月 発行) | Ectopic Hepatocellular Carcinoma at Left Sub-Diaphragm with Lung Metastasis. | 西川和男 | 腫瘍内科 |
| Gastric Cancer (2011年7月 発行) | A phase II study of biweekly mitomycin C and irinotecan combination therapy in patients with fluoropyrimidine-resistant advanced gastric cancer: a report from the Gastrointestinal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group(JCOG0109-DI Trial). | 白尾國昭 | 腫瘍内科 |
| International Journal of Cancer (2011年11月 発行) | Pharmacokinetic parameters from 3-Tesla DCE-MRI as surrogate biomarkers of antitumor effects of bevacizumab plus FOLFIRI in colorectal cancer with liver metastasis. | 平島詳典 | 腫瘍内科 |
| International Journal of Clinical Oncology (2011年11月 発行) | Evaluation of safety, pharmacokinetics, and efficacy of vorinostat, a histone deacetylase inhibitor, in the treatment of gastrointestinal (GI) cancer in a phase I clinical trial. | 白尾國昭 | 腫瘍内科 |
| 日本臨床検査自動化学会誌 (2011年6月 発行) | PCA管理システムによる検査過誤検出 | 上野民生 | 検査部 |
| The Japanese Journal of Anesthetics (2011年4月 発行) | Meropenemを含む各種注射用抗菌薬に対する2009年臨床分離株の感受性サーベイランス | 犀川哲典 | 検査部 |
| 日本細菌性感染症研究 (2011年11月 発行) | Bacteroides fragilis groupの分離状況と薬剤感受性 | 平松和史 | 検査部 |
| Progress in Medicine (2011年4月 発行) | アミオダロン増量により心房細動が停止し重症心不全から離脱できた感心機能症例 | 脇坂 収 | 検査部 |

| | | | |
|---|--|------|-------|
| 日本臨床検査自動化学会会誌 (2011年1月発行) | 全自動免疫測定装置HISCL-2000を用いたインスリン測定試薬の検討 | 黒木秀作 | 検査部 |
| The Japanese Journal of Antibiotics (2012年2月発行) | 各種抗菌薬に対する2008年臨床分離好気性グラム陽性球菌および嫌気性菌の感受性サーベイランス | 犀川哲典 | 検査部 |
| The Japanese Journal of Antibiotics (2012年2月発行) | 各種抗菌薬に対する2008年臨床分離好気性グラム陽性菌の感受性サーベイランス | 犀川哲典 | 検査部 |
| 医学検査 (2012年3月発行) | 全自動免疫測定装置HISCL-2000を用いたNT-proBNP測定試薬の検討 | 黒木秀作 | 検査部 |
| Cardiovascular Research (2011年8月発行) | Disruption of fuel servicing in the myocardium: from 'eutaxy and efficiency' to 'ataxy and inefficiency'. | 犀川哲典 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年7月発行) | Determinants of warfarin use and international normalized ratio levels in atrial fibrillation patients in Japan. - Subanalysis of the J-RHYTHM Registry. | 犀川哲典 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年4月発行) | Gender difference in baroreflex sensitivity to predict cardiac and cerebrovascular events in type 2 diabetic patients. | 油布邦夫 | 検査部 |
| Cardiovascular Research (2011年9月発行) | Candesartan restores cardiac HSP72 expression and tolerance against reperfusion injury in hereditary insulin-resistant rats. | 高橋尚彦 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年10月発行) | Pliglitazone attenuates inflammatory atrial fibrosis and vulnerability to atrial fibrillation induced by pressure overload in rats. | 久米 治 | 検査部 |
| The Japanese Journal of Antibiotics (2011年5月発行) | Cardioprotective effects of pravastatin against lethal ventricular arrhythmias induced by reperfusion in the rat heart. | 手嶋泰之 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年4月発行) | Atrial tachycardia during ongoing atrial fibrillation ablation. -Esite array analysis- | 高橋尚彦 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年7月発行) | A new method of a pulmonary vein map to identify a conduction gap on the pulmonary vein antrum ablation line. | 高橋尚彦 | 検査部 |
| Circulation Journal (2011年4月発行) | Present status of anticoagulation treatment in Japanese patients with atrial fibrillation: a report from the J-RHYTHM Registry. | 犀川哲典 | 検査部 |
| International Heart Journal (2011年3月発行) | Statin treatment for patients with paroxysmal atrial fibrillation. | 犀川哲典 | 検査部 |
| The Japanese Journal of Antibiotics (2011年4月発行) | Nationwide surveillance of parenteral antibiotics containing meropenem activities against clinically isolated strains in 2009. | 犀川哲典 | 検査部 |
| Pathology - Research and Practice (2011年6月発行) | Tyrosine kinase receptor RON and its ligand MSP in Merkel cell carcinoma. | 長浜純二 | 検査部 |
| British Journal of Pharmacology (2012年1月発行) | Inhibition of Na ⁺ -H ⁺ exchange as a mechanism of rapid cardioprotection by resveratrol. | 手嶋泰之 | 検査部 |
| Journal of Gastroenterology and Hepatology (2011年4月発行) | Impact of Helicobacter pylori CagA diversity on gastric mucosal damage:an immunohistochemical study of East Asian type CagA. | 安部高志 | 総合診療部 |
| Esophagus (2011年6月発行) | Difference between urban and rural regions in Japan in estimated risk of esophageal cancer based on a health risk appraisal model that includes an alcohol flushing questionnaire. | 中川善文 | 総合診療部 |
| PLoS ONE (2011年7月発行) | Genomic profiling of submucosal-invasive gastric cancer by array-based comparative genomic hybridization. | 黒田明子 | 総合診療部 |
| Journal of Neurology (2011年8月発行) | The relationship between Helicobacter pylori infection and Alzheimer's disease in Japan. | 塩田星児 | 総合診療部 |
| Journal of Gastroenterology (2011年9月発行) | Serodiagnosis of Helicobacter hepaticus infection in patients with liver and gastrointestinal diseases: western blot analysis and ELISA using a highly specific monoclonal antibody for H.hepaticus antigen. | 村上和成 | 総合診療部 |
| Clinical Laboratory (2011年7月発行) | An Evaluation of the Performance of a Novel Stick-Type Kit for Rapid Detection of Helicobacter pylori Antibodies in Urine. | 村上和成 | 総合診療部 |
| World Journal of Gastroenterology (2011年12月発行) | Aspirin-induced small bowel injuries and the preventive effect of rebamipide. | 水上一弘 | 総合診療部 |

| | | | |
|--|--|-------|-------|
| BMC Gastroenterology (2011年12月 発行) | Association between Helicobacter pylori cagA-related genes and clinical outcomes in Colombia and Japan. | 綿田雅秀 | 総合診療部 |
| World Journal of Gastroenterology (2012年1月 発行) | Influence of proton pump inhibitor treatment on Helicobacter pylori stool antigen test. | 兒玉雅明 | 総合診療部 |
| Digestion (2012年4月 発行) | Helicobacter pylori Eradication Improves Gastric Atrophy and Intestinal Metaplasia in Long-Term Observation. | 兒玉雅明 | 総合診療部 |
| PLoS ONE (2012年1月 発行) | Helicobacter pylori IccA, Clinical Outcomes, and Correlation with cagA: A Meta-Analysis. | 塩田星児 | 総合診療部 |
| Journal of Gastroenterology (2012年3月 発行) | A large-scale nationwide multicenter prospective observational study of triple therapy using rabeprazole, amoxicillin and clarithromycin for Helicobacter pylori eradication in Japan. | 藤岡利生 | 総合診療部 |
| Journal of Clinical Microbiology (2012年3月 発行) | Association between Helicobacter pylori virulence factors and gastroduodenal diseases in Okinawa, southwestern island of Japan. | 松成 修 | 総合診療部 |
| Brain Stimulation (2011年4月 発行) | Infrared radiation has potential antidepressant and anxiolytic effects in animal model of depression and anxiety. | 田中悦弘 | 精神科 |
| Journal of Affective Disorders (2011年6月 発行) | Association between affective temperaments and brain-derived neurotrophic factor, Glycogen synthase kinase 3 β and Wnt signaling pathway gene polymorphisms in healthy subjects. | 堤 隆 | 精神科 |
| PLoS ONE (2011年8月 発行) | DNA Methylation Profiles of the Brain-Derived Neurotrophic Factor(BDNF) Gene as a Potent Diagnostic Biomarker in Major Depression. | 寺尾 岳 | 精神科 |
| Psychiatry and Clinical Neuroscience (2011年8月 発行) | Effect of temperaments on quality of life and social adaptation in depressive patients with mood disorder. | 寺尾 岳 | 精神科 |
| Journal of Affective Disorders (2011年9月 発行) | Type A behavior pattern and hyperthymic temperament: Possible association with bipolar IV disorder. | 寺尾 岳 | 精神科 |
| The World Journal of Biological Psychiatry (2012年1月 発行) | Aripiprazole augmentation in 13 patients with refractory obsessive-compulsive disorder: A case series. | 日隈晴香 | 精神科 |
| Journal of Affective Disorders (2012年2月 発行) | Bipolar temperaments and light. | 荒木康夫 | 精神科 |
| Journal of Affective Disorders (2012年2月 発行) | Is serotonergic function associated with the antidepressant effects of modified-electroconvulsive therapy? | 後藤慎二郎 | 精神科 |
| Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry (2012年3月 発行) | Salivary alpha-amylase and cortisol responsiveness following electrical stimulation stress in major depressive disorder patients. | 田中悦弘 | 精神科 |
| Neuropathology (2011年6月 発行) | Case Report: Anaplastic with angiocentric ependymal differentiation. | 宮原弘明 | 小児科 |
| Nutrition (2011年10月 発行) | Characterization and chronological changes of preterm human milk gangliosides. | 前田知己 | 小児科 |
| Vaccine (2011年7月 発行) | Detection of platelet-binding anti-measles and anti-rebulla virus IgG antibodies in infants with vaccine-induced thrombocytopenic purpura. | 岡崎直歩 | 小児科 |
| PLoS ONE (2011年 4月 発行) | Sex- and age-related differences in morbidity rates of 2009 pandemic influenza A H1N1 virus of swine origin in Japan. | 是松聖悟 | 小児科 |
| 小児保健研究 (2011年9月 発行) | 小児科医のいびい街から“子どもを産み育てやすい街”への転換—過疎地域における小児医療・保健の役割と評価 | 泉 達郎 | 小児科 |
| Radio Graphics (2011年7月 発行) | Dual-Energy (Spectral) CT: Applications in Abdominal Imaging. | 本郷哲央 | 放射線科 |
| Abdominal Imaging (2012年8月 発行) | Internal hernias after abdominal surgeries: MDCT features. | 本郷哲央 | 放射線科 |
| British Journal of Radiology (2011年12月 発行) | Pulmonary thin-section CT findings in acute Moraxella catarrhalis pulmonary infection. | 岡田文人 | 放射線科 |
| Journal of Vascular and Interventional Radiology (2011年7月 発行) | Balloon-occluded retrograde transvenous obliteration of complex gastric varices assisted by temporary balloon occlusion of the splenic artery. | 清末一路 | 放射線科 |

| | | | |
|---|---|-------|----------|
| Abdominal Imaging (2012年2月発行) | Intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas complicated with intraductal hemorrhage, perforation, and fistula formation: CT and MR imaging findings with pathologic correlation. | 山田康成 | 放射線科 |
| Expert Review of Clinical Pharmacology (2011年7月発行) | Duration of drug interactions: putative time-courses, after mechanism-based inhibition or induction of CYPs. | 今井浩光 | 臨床薬理センター |
| 日本消化器内視鏡学会雑誌 (2011年6月発行) | 内視鏡的胆嚢治療の現況と展望 | 太田正之 | 消化器外科 |
| 日本コンピュータ外科学会誌 (2011年9月発行) | NOTESの現状と課題 | 安田一弘 | 消化器外科 |
| 胆と癌 (2011年3月発行) | Incidental Gallbladder Cancer 術後初期時の対応—病理診断— | 矢田一宏 | 消化器外科 |
| Cancers (2011年6月発行) | Lymph Node Metastasis of Gastric Cancer. | 赤木智徳 | 消化器外科 |
| Journal of Surgical Oncology (2012年4月発行) | Minimally invasive approaches for gastric cancer— Japanese Experience. | 衛藤 剛 | 消化器外科 |
| Behavioural Brain Research (2011年5月発行) | Transcranial direct current stimulation decreases convulsions and spatial memory deficits following pilocarpine-induced status epilepticus in immature rats. | 上田 徹 | 脳神経外科 |
| European Journal of Clinical Investigation (2011年7月発行) | Homocysteine levels are associated with hippocampus volume in type 2 diabetic patients. | 下村 剛 | 脳神経外科 |
| Neuroscience Letters (2011年6月発行) | Cognitive alteration after carotid revascularization is correlated with cortical GABA(B)-ergic modulations. | 藤木 稔 | 脳神経外科 |
| 臨床神経生理学 (2011年11月発行) | 磁気刺激法の安全性に関するガイドライン | 藤木 稔 | 脳神経外科 |
| 臨床神経生理学 (2011年11月発行) | 経頭蓋直流電気刺激の安全性に関するガイドライン | 藤木 稔 | 脳神経外科 |
| 日本AEM学会誌 (2011年8月発行) | 過電流収束効果を用いた連続経頭蓋磁気刺激用コイルの開発 | 藤木 稔 | 脳神経外科 |
| Journal of Spinal Disorders & Techniques (2011年6月発行) | Analysis of Measured D-dimer Levels for Detection of Deep Venous Thrombosis and Pulmonary Embolism After Spinal Surgery. | 吉岩豊三 | 整形外科 |
| Bone (2011年10月発行) | Manipulation of the anabolic and catabolic responses with BMP-2 and zoledronic acid in rat femoral fracture model. | 宮崎正志 | 整形外科 |
| Journal of Spinal Disorders & Techniques (2011年10月発行) | Clinical features of cervical pyogenic spondylitis and intraspinal abscess. | 宮崎正志 | 整形外科 |
| Journal of Investigative Dermatology (2011年9月発行) | Efficacy of Combined Peroxisome Proliferator-Activated Receptor- α Ligand and Glucocorticoid Therapies in a Murine Model of Atopic Dermatitis. | 波多野 豊 | 皮膚科 |
| Journal of Biological Chemistry (2011年3月発行) | Dermatopontin interacts with fibronectin, promotes fibronectin fibril formation, and enhances cell adhesion. | 加藤愛子 | 皮膚科 |
| 日本マイクロカテーラー学会誌 (2011年12月発行) | 遊離前外側大腿皮弁により再建した硬膜を含む頭部複合組織欠損の4例 | 清水史明 | 皮膚科 |
| 臨床眼科 (2011年4月発行) | 腹臥位での全身麻酔下脊椎手術後の虚血性眼高コンパートメント症候群の1例 | 神田愛子 | 眼科 |
| 臨床眼科 (2011年5月発行) | 外傷性前房出血に対するアトロピン散瞳中に外斜視を発症した1例 | 阿部志保 | 眼科 |
| ISRN Ophthalmology (2011年11月発行) | Switching from intravitreal ranibizumab to bevacizumab for age-related macular degeneration. | 山田喜三郎 | 眼科 |
| Gravels' Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology (2012年1月発行) | The PI3K/Akt pathway mediates the expression of type I collagen induced by TGF- β 2 in human retinal pigment epithelial cells. | 横山勝彦 | 眼科 |
| 臨床眼科 (2012年1月発行) | 大分大学医学部眼科におけるぶどう膜炎の臨床統計 | 久保田敏昭 | 眼科 |

| | | | |
|--|--|-------|-------------|
| 日本気管食道学会 (2011年6月発行) | 外変における喉頭結核診療の問題点 -喉頭結核の1例を経験して- | 野田謙二 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (2011年7月発行) | 扁桃高田織痛の治療 | 渡辺哲生 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| Acta Oto-Laryngologica (2011年9月発行) | A single nasal dose of CCL20 chemokine induces dendritic cell recruitment and enhances nontypable Haemophilus influenzae-specific immune responses in the nasal mucosa. | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 日本耳鼻咽喉科学会 (2011年10月発行) | 内視鏡下涙管鼻腔吻合術 -粘膜炎に工夫したWormald変法- | 児玉 悟 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| FEMS Immunology & Medical Microbiology (2011年12月発行) | Monophosphoryl lipid A induced innate immune responses via TLR4 to enhance clearance of nontypable Haemophilus influenzae and Moraxella catarrhalis from the nasopharynx in mice. | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| Microbiology and Immunology (2011年12月発行) | Tb17 cells contribute to nontypable Haemophilus influenzae-specific protective immunity induced by nasal vaccination with P6 outer membrane protein and α -galactosylceramide. | 野田謙二 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| ENT-Ear Nose & Throat Journal (2012年1月発行) | Orbital blowout fracture caused by nose blowing. | 渡辺哲生 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| Microsurgery (2012年1月発行) | Single-stage reconstruction of oral and hypopharyngeal double cancer with a free jejunal flap. | 平野 隆 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 (2012年2月発行) | 甲状腺機能低下症における音声の構音障害と聴覚 -甲状腺腫を欠いた2例 | 鈴木正志 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 |
| Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (2011年6月発行) | Aberant DNA methylation status of endometriosis: Epigenetics as the pathogenesis, biomarker, and therapeutic target. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Frontiers of Bioscience (2011年6月発行) | Role of chemokines in the pathogenesis of endometriosis. | 西田正和 | 産科婦人科 |
| European Journal of Gynecologic Oncology (2012年2月発行) | Malignant lymphoma of the vagina successfully treated with rituximab, adriamycin, cyclophosphamide, vincristine sulfate, and prednisolone. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Asian Pacific Journal of Cancer Prevention (2012年1月発行) | Bulain, a traditional oriental medicine, induces apoptosis in human cancer cells. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism (2011年12月発行) | Fasudil hydrochloride inhibits the proliferation and the contractility and induces apoptosis of human endometriotic stromal cells: a promising agent for the treatment of endometriosis. | 津野晃寿 | 産科婦人科 |
| Human Reproduction (2011年9月発行) | Application of the histone deacetylase inhibitors for the treatment of endometriosis: Histone modifications as pathogenesis and novel therapeutic target. | 川野由紀枝 | 産科婦人科 |
| Growth Factors (2011年6月発行) | Effect of heparin-binding EGF-like growth factor and amphiregulin on the MAP kinase-induced production of vascular endothelial growth factor by human granulosa cells. | 河野康志 | 産科婦人科 |
| Tumour Biology (2011年6月発行) | Erucylophosphocholine induces growth inhibition, cell cycle arrest, and apoptosis in human choriocarcinoma cells. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| International Journal of Gynecological Cancer (2011年8月発行) | Effects of bulain on the proliferation of human choriocarcinoma cells. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| Archives of Gynecology and Obstetrics (2011年5月発行) | Impact of positron emission tomography/computed tomography in the management of patients with epithelial ovarian carcinoma after treatment. | 奈須家栄 | 産科婦人科 |
| Gynecologic and Obstetric Investigation (2012年3月発行) | The Effects of Epidermal Growth Factor and Transforming Growth Factor- α on Secretion of Interleukin-8 and Growth-Regulated Oncogene- α in Human Granulosa-Lutein Cells. | 川野由紀枝 | 産科婦人科 |
| Gynecologic and Obstetric Investigation (2011年4月発行) | Cadmium chloride induces the expression of metallothionein mRNA by endometrial stromal cells and amnion-derived (WISH) cells. | 河野康志 | 産科婦人科 |
| Kampo Medicine (2011年4月発行) | A case of severe bell palsy successfully treated with daisangoshichisanryo and kososan during pregnancy. | 西田欣広 | 産科婦人科 |
| Archives of Gynecology and Obstetrics (2011年4月発行) | Synchronous ovarian endometrioid adenocarcinoma with a functioning stroma and endometrial endometrioid adenocarcinoma by different loss of heterozygosity findings. | 高井教行 | 産科婦人科 |
| 日本エンドメトリオシス学会誌 (2011年7月発行) | 子宮内膜癌細胞の細胞外マトリックスに対する接着性の増強 | 奈須家栄 | 産科婦人科 |

| | | | |
|--|---|-------|--------|
| Journal of Surgical Research (2011年12月 発行) | Continuous hemofiltration therapy ameliorates LPS-induced systemic inflammation in a rat model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Middle East Journal of Anaesthesiology (2011年10月 発行) | Effects of preoperative oral carbohydrates and trace elements on perioperative nutritional status in elective surgery patients. | 小山淑正 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年12月 発行) | Filtration leukocytapheresis therapy ameliorates LPS-induced systemic inflammation in a rat model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Dialysis and Transplantation (2011年3月 発行) | Amino acid removal in high-flow and conventional continuous hemofiltration. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年12月 発行) | EPCK1, a vitamin C and E analogue reduces endotoxin-induced systemic inflammation in mice. | 新宮千尋 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年12月 発行) | ETS-GS, a New Anti-Oxidative Drug, Protects Against Lipopolysaccharide-Induced Acute Lung and Liver Injury. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年11月 発行) | Insulin Treatment of Diabetic Rats Reduces Cardiac Function in a Lipopolysaccharide-Induced Systemic Inflammation Model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年11月 発行) | ETS-GS, a new antioxidant, ameliorates renal ischemia-reperfusion injury in a rodent model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年11月 発行) | Cephalothine improve renal ischemia reperfusion injury in rats. | 日下淳也 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年11月 発行) | Cepharantine exerts anti-inflammatory effects via NF- κ B inhibition in a rat systemic inflammation. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Surgical Research (2011年9月 発行) | Relationship between HMGB1 and tissue protective effects of HSP72 in a LPS-induced systemic inflammation model. | 岩坂日出男 | 麻酔科 |
| Journal of Gastroenterology & Hepatology (2011年10月 発行) | Dihydroliposyl histidinate zinc complex, a new antioxidant, attenuates hepatic ischemia-reperfusion injury in rats. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| The Thoracic and Cardiovascular Surgeon (2011年10月 発行) | Heat shock protein 47 antisense oligonucleotides reduce cardiac remodeling and improve cardiac function in a rat model of myocardial infarction. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia (2011年6月 発行) | Anilinoceprive effects of estradiol involve the descending pain inhibitory pathway on adjuvant-induced pain in the rat. | 奥田健太郎 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia (2011年6月 発行) | Catecholamine-resistant shock and hypoglycemic coma after cardiotomy in a patient with isolated ACTH deficiency. | 松本重清 | 麻酔科 |
| Surgery Today (2011年12月 発行) | Remifentanyl and glucose suppress inflammation in a rat model of surgical stress. | 岩坂日出男 | 麻酔科 |
| Journal of Anesthesia and Clinical Research (2011年9月 発行) | Continuous renal replacement therapy improves septic shock in patients unresponsive to early goal-directed therapy. | 後藤孝治 | 麻酔科 |
| Anesthesia and Clinical Research (2011年10月 発行) | Effects of the antioxidant-enriched concentrated liquid diet ANOM on oxidative stress and multiple organ injury in patients with septic shock: a pilot study. | 松本重清 | 麻酔科 |
| 薬学雑誌 (2011年9月 発行) | Effect of hemopurification rate on doripenem pharmacokinetics in critically ill patients receiving high dose continuous hemofiltration. | 大地嘉史 | 麻酔科 |
| Surgery Today (2011年10月 発行) | Anti-inflammatory effects of perioperative intensive insulin therapy during cardiac surgery with cardiopulmonary bypass. | 岩坂日出男 | 麻酔科 |
| American Journal of Nephrology (2011年6月 発行) | The antioxidant EPC-K1 attenuates renal ischemia-reperfusion injury in a rat model. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| Surgery Today (2011年5月 発行) | The alpha-lipoic acid derivative sodium zinc dihydroliposylhistidinate reduces chemotherapy-induced alopecia in a rat model: a pilot study. | 萩原 聡 | 麻酔科 |
| 日本血管外科学会雑誌 (2011年12月 発行) | 重症虚血肢に対するバイパスおよび遊離組織弁移植の同時手術症例の検討 | 竹林 聡 | 心臓血管外科 |
| Journal of the American College of Cardiology (2011年12月 発行) | Percutaneous transvenous Melody valve-in-ring procedure for mitral valve replacement. | 首藤敬史 | 心臓血管外科 |

| | | | |
|---|--|------|-----|
| The Journal of pharmacy and pharmacology (2011年7月発行) | No effect of co-administered antiepileptic drugs on in-vivo protein binding parameters of valproic acid in patients with epilepsy. | 鈴木陽介 | 薬剤部 |
| Biological and pharmaceutical bulletin (2011年10月発行) | Comparison of the effects of pantethine and fursultiamine on plasma gastrointestinal peptide levels in healthy volunteers. | 鈴木陽介 | 薬剤部 |

小計 2
計 168

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | | | |
|---------|------------------|----------------|--|
| 管理責任者氏名 | 病 院 長 野 口 隆 之 | | |
| 管理担当者氏名 | 総務課長 東 家 廣 典 | 医事課長 三 浦 進 治 | |
| | 副薬剤部長 伊 東 弘 樹 | 放射線部長 森 宣 | |
| | 医療安全管理部長 三 股 浩 光 | 研究協力課長 千々松 範 朗 | |

| | | 保 管 場 所 | 管 理 方 法 |
|--------------------------------------|--|------------------|---|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん | | 各診療科 薬剤部 | カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピューターによる集中管理を行っている。 また、エックス線写真は、放射線部において一患者一ファイルで管理を行っており、共に永久保存を原則としている。 |
| 手術記録、看護記録、検査所見記録 | | 医事課 | |
| エックス線写真 | | 放射線部 | |
| 紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 医事課 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | | 総務課 | |
| | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 研究協力課 総務課 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課及び薬剤部 | |
| 第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号の状況及び第九条の二十三第一項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医事課 (医療安全管理部) | 医療事故報告の記録については統計処理が行えるよう、データ化して保管している |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医事課 (医療安全管理部) | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医事課 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医事課 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医事課 | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 医事課 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医事課 | |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 (医療安全管理部) | |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|------------------|--------------------|---|----------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則 | 院内感染のための指針の策定状況 | 医事課 |
| | 第一条 | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 医事課 |
| | 第十一条 | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 医事課 |
| | 第一項各号 | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医事課 (感染制御部) |
| | 及び第九條 | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 医事課 |
| | 第二十三條 | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 医事課 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療機器安全管理専門委員会 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療機器安全管理専門委員会 |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療機器安全管理専門委員会 |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|------------------|
| 閲覧責任者氏名 | 医学・病院事務部長 松田 篤 郎 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長 東 家 廣 典 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 管理棟第 2 会議室 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|---------|-------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 件 |
| 閲覧者別 | 医 師 | 延 0 件 |
| | 歯 科 医 師 | 延 0 件 |
| | 国 | 延 0 件 |
| | 地方公共団体 | 延 0 件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|-----------------------|------|----------------------|
| 紹介率 | 81.1 % | 算定期間 | 平成23年4月1日～平成24年3月31日 |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | | 8,772人 |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | 7,772人 |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | | 1,536人 |
| | D：初診の患者の数 | | 14,517人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|---|--|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的考え方，医療安全管理に係る体制確保のための組織等，医療安全管理に係る職員の教育・研修，医療事故発生時の対応，医療事故等の報告及び改善策の立案，当該指針の閲覧，患者相談に関する方針等 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| ・ 活動の主な内容： 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直し，医療事故の判定，医療安全管理に関する改善策，医療安全管理のための職員研修，医事紛争，その他医療安全管理上の重要事項の審議 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 6 回 |
| ・ 研修の主な内容： 平成 2 2 年度インシデント報告総括と平成 2 3 年度年間計画について，ME 機器講習会，周術期の安全確保：安全確実な C V 挿入法と W H O 安全な手術ガイドライン 2 0 0 9，医薬品適正使用～麻薬・持参薬・後発品の取り扱い～，薬剤性有害事象の現状 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 事故報告については，調査・分析を行い，改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や決定した安全対策については，毎月リスクマネージャー連絡会を開催し，リスクマネージャーを通して全体への周知を図っている。 定期的に院内ラウンドを実施し，安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証を行っている。 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (1 名) ・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (5 名) ・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (1 5) 名 ・ 活動の主な内容： メディカル・リスクマネジメント委員会が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務 院内インシデントの情報収集，分析及び対策の立案，検討結果の委員会への報告及び現場へのフィードバック 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認と指導 患者や家族への説明など発生時の対応状況の確認と指導・助言 医療内容についての相談等，医療安全に係る連絡調整，医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営，医療安全対策の推進 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容： 院内感染に対する基本的考え方、院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項、院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針、その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p> | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| <p>・ 活動の主な内容： 感染予防対策の確立、感染予防の実施、監視及び指導、感染源の調査、感染予防対策に関する情報の収集等</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 4 回 |
| <p>・ 研修の主な内容： 最近の耐性菌の動向とその対策 ～ヒューマンファクターから考える手指衛生を含めて～、もっと知って！抗菌薬・耐性菌ラウンドの役割と目指すもの、検体採取法と微生物検査、2 3 年度感染制御活動</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 抗菌薬の使用状況やTDM実施教協についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を図っている。 感染制御部及びリンクナースによる院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。 マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通して周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発刊し各部署へメール配信している。</p> | |

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 5 回 (ビデオセミナーを含む) |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○もっと知って！抗菌薬・耐性菌ラウンドの役割と目指すもの</p> <p>○医薬品適正使用 ～麻薬・持参薬・後発品の取り扱い～</p> <p>○薬剤性有害事象の現状</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：平成 2 4 年 7 月に実施し，確認内容を保管記録している。</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。</p> <p>D I ニュース (月 1 回発行)，薬剤部便り (月 1 回発行)，その他必要に応じて通知文書として配布</p> | |

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 3 8 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>研修医オリエンテーション、看護部新採用者 ME 研修，ME 機器講習会にて、全部署にて使用する医療機器（人工呼吸器・除細動器・輸液ポンプ等）の講習会を実施</p> <p>部署ごとに関連する医療機器の講習会（人工呼吸器，透析装置，IABP・PCPS，除細動器，人工心肺，補助人工心臓，保育器，輸液ポンプ・シリンジポンプ）の実施</p> <p>各種医療機器（超音波診断装置・ベッドサイドモニタ）導入時研修の実施</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・ 計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置，補助循環装置，人工呼吸器，除細動器，AED，血液浄化装置，保育器，輸液ポンプ等の点検スケジュールの策定，実施は臨床工学技士が行っている。</p> <p>また，放射線機器については，放射線技師が実施している。</p> <p>(始業・終業点検，安全・動作確認等日常点検，出力測定，漏洩線量測定など)</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器安全管理システムを用いた添付文書及び安全情報の管理，PMDA メディナビによる情報収集，MDIC 取得（臨床工学技士 2 名），ME 機器講習会での周知，臨床工学技士の各種研修会・講習会への参加や報告</p> | |